

司会：（では、次に）先だって産業振興計画の住民説明会のときにご発言をいただいた、「米のブランド化による稲作農業の展開」の取り組みについて、その後の経過等お話しただけならと思います。「本山町特産品ブランド化推進協議会」の方構いませんでしょうか。

Lさん： 本山町農業公社のLです。

現在本山町に限らず嶺北全体もそうですが、耕作条件が悪い水田で今の米価ですと棚田を守っていくことは不可能であろうということから、お米の価格を上げるため、また地域の名を売るためにブランド化を進めていこうと取り組みを進めています。現在の進捗状況は、県の事業の中で色彩選別機、米選機等導入し、今あるお米の品質をさらに上げて県外、首都圏等へ売り出していく動きができています。また、県内ではこだわりのお米を取り扱う米穀店さん等が集まる会議等にPR宣伝に出席して、数々のPRをしてきました。「非常に品質が良く、味も良さそうである、ぜひ取り扱ってみたい」という声をいただき、生産者ともども全力で活動しているところです。今後とも、県また普及所等の支援をいただきまして、この事業を伸ばしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

知事： 20年は417万円売れたそうですね。今年はどうくらいいけそうですね。海洋深層水を使っておられるそうですね。

Lさん： 2,000万円です。海洋深層水のにがりを使用して、独自の甘みを出すやり方でやっています。

知事： それはすごいですね。23年度の目標7,500万円に向かって頑張ってください。

海洋深層水は、中内知事さんの時代からずっと取り組んでいて、今100億円を超える産業になっています。しかし、海洋深層水自体があちこちで取れるようになり、商品も真似されるようになってきたりして、もう一段の飛躍が必要だということで、商品のバリエーションを広げて、さらに新しい科学技術も加えて商品開発しようとしているところです。海洋深層水のPRもぜひやっていただければと思いますし、多くの皆さんに海洋深層水も活用いただいて、新しいものを作っていただく方向に進めばと思います。